

佳作

## 私の大好きなピアノ

群馬県 太田市立沢野小学校四年 木綿 裕菜

私は、ピアノをひくことが大好きです。

私が小さいころに、お母さんがたくさんピアノをひいてくれて、それをきいて、私もこなすてきな曲をひいてみたいと思って、ピアノを習い始めました。

でもひいてみると、お母さんはとてもかん单そうにひいているのに、なぜ私はひけないんだろうと思いました。だけど、どんどん練習していつてうまくなるにつれて、とても楽しくひけるようになりました。

発表会に出ることになり、私の大好きな曲がわたされました。その曲をお母さんがひいてくれて聞いてみると、私はこなすてきな曲がひけるのかと思いい、ワクワクしました。ひいてみると、たくさんのおんぶがあったり、楽ふが長かったり、あまり思う

ように最初はひけませんでした。

そんな時、お母さんからアドバイスをしてもらって、がんばってひいてみたのですが、うまくいかず、反こうしてしまうこともありました。

そんな時、反こうする私にお母さんは、

「できなくても、たくさん練習すれば必ずできるよになるよ。」

と教えてくれました。

私は、あきらめずにたくさん練習することを決めました。毎日宿題が終わると、二時間リズム練習やスタッカート練習をし、まちがったところは、十回以上ひく練習をしました。それでも、お母さんから毎日、「上手だね」とは言われずに、注意されるばかりで落ちこむ日もありました。発表会が近づくとつれて、私は不安な気持ちでいっぱいになりました。それでも、私は、自分が決めた練習は欠かさず毎日やりました。

そして、発表会をむかえた日の朝、お母さんから、「今までいっぱい練習してきたことを信じて、楽しんでひいてね。」

と言われました。私は朝からドキドキしていたけど、少し気持ちが楽になりました。

発表会のステージに上がった時、不安な気持ちよりも、なぜかとてもワクワクした気持ちになりました。今までたくさん練習したこともあって、できなかった所も上手にひくことができました。ひき終わってお母さんの所に行くと、お母さんは泣いていました。どうして泣いているのか聞いたたら、

「感動したの。」

と言っていました。それから知らないおばあさんからも、

「とっても上手だったね。音がすごくきれいだったよ。」

と言われた時は、本当にうれしくて、最後まであきらめずにがんばってよかったです。これからも、この気持ちをわすれずに大好きなピアノをがんばりたいです。